兄弟勞働者諸君に訴ふ！

榮進社爭議について諸君に訴へる。吾々榮進社從業員百五十名は、今日まで不完全な工場設備と、過酷な勞働とに甘んじ、耐えられぬ虐使と搾取にも耐へて、よくその職務に從事して來た。けれども、低く出れば出るほど益々打ちのめすのは彼等資本家の見下げ果てた根情である、吾等の堅忍を奇貨措くべしとなし遂に去る二月十八日全從業員に殘業を强制し、此れに應ぜざるものには、從來夜業をなさずとも本給に加へつつあつた三分の歩增を撤癈すべきことを宣言した。三分の歩をうけつゝあつた從來とても吾等の生活は劣惡を極めたものであつたが、今やその劣惡な生活さへも、連日殘業に從事するにあらずんば之を維持することが出來なくなつた。而して連日夜業に從事せんか吾等の健康は忽ち破壞されるであらふ。ことこゝに到つては吾等は最早や耐え得ない。吾等は蹶起を餘議なくされた。則ち吾等全從業員は吾等の城塞たる勞働組合に據り、二月二十日、『步增を撤癈して本給三割の値上げ』以下八項の嘆願書を提出した。

諸君は吾等の要求と行動が如何に柔順であり正當であるかを知るだらう。けれども暴慢限りなき資本家は吾等の要求の蹂躪と組合の破壞の爲に、二十一日午後三時三週間の工場閉鎖（ロックアウト）を以て挑戰し、吾等がこれを物ともせず堂々の陣を張り、團結の威力を以つて此れに對峙するや二十七日彼等は全員解雇の無謀を敢てした。こゝに於いてか、吾等はこの不當解雇を跳ねつけ、初志の貫徹のために死生の戰を鬪ふべく決意し、持久戰を準備した。

吾等は飽くまでも戰ふであらう。これ關東勞働戰線に於ける大正十四年の劈頭戰である、吾等は、飽くまで勝たねばならぬ。しかし吾等は貧しく、軍費は乏しい。諸君の援助なしには、吾等は勝てないであらう。兄弟よ！吾等百五十名の幸福のために、勞働戰線の擁護のために、或は物質的に或は精神的に援助せられんことを希ふ吾等は勝つべし。吾等をして勝たしめよ！敢へて諸君の義心に訴ふ。

大正十四年三月三日

東京府下日暮里町二七四

榮進社爭議團本部

日本勞働總同盟 關東鐵工組合日暮里支部

日暮里分署に於ても大塚署に於ても然るに全
雑務にして、我々が栄進社側の意を会せずして
如き感あり、
会社側態度
廿日の工場閉鎖其他のやりくちを見て、頗る
大膽に強硬に打好する態りも窺得して
居る様に思はれた、
労働者側の態度、
労働者側は随分思い切って強硬な態度を取
って居る様に思はれた、然し社長印の御突如き戦術
として頗る数少なかったが如何深謝会（関東）の途中
非常に憤激して、居る様模様あり

法人 協調會